

新型インフルエンザの ワクチン集団接種を振り返って

橋爪 誠 岡谷市介護福祉課長

岡谷市医師会の皆様方には、日ごろから岡谷市民の健康増進や保健予防、予防接種、そして介護予防、介護認定など様々な事業に、ご理解とご支援、ご協力をいただき、心から感謝申し上げます。特に予防接種については、集団接種、個別接種とも、大過なく実施できておりますことは、先生方のご協力の賜物と思っております。御礼申し上げます。

予防接種といえば、2年前に現れた新型インフルエンザ(A/H1N1)は、まだ記憶に新しいところかと…。H22-23シーズンも流行したし…。でも、季節型と変わらないし、今更新型インフルでもないのでは、という方もおられるのではと思いますが、次に備えて、記憶のあるうちに再確認をということで、ちょっとお付き合いいただければありがたいと思います。

本稿ではワクチン集団接種実施について、行政の立場、裏方はどうであったか、当時を振り返ってみたいと思います。なお、医療面では岡谷市医師会報第133号(平成22年7月1日発行)の特集で、山田先生、小野先生と諏訪保健福祉事務所 小松所長さんの記事に詳しいので、是非再読いただければ幸いです。

感染拡大

当時をおさらいしてみますと、平成21年(2009年)4月、メキシコで流行が確認され、瞬く間に世界中に感染を拡大した豚山来の新型インフルエンザ(A/H1N1)は、5月9日に日本での国内感染が初めて確認され、長野県内では6月13日に飯田市で、8月11日に岡谷市内での感染が確認されました。

感染に関し、長野県からの情報はなかなかもらえませんでした。発生市町村には伝えるが、近隣には連絡しないということで、情報提供に不満が残りました。

こうした状況を踏まえて、10月に岡谷市医師会からワクチンの集団接種の提言をいただきました。ワクチン接種の厚生労働省の方針は「国と契約した医療機関が、実施医療機関として個別接種する。」というもので、集団接種の考え方は含ま



はしづめ まこと

生年月日 昭和30年8月11日

学 校 市立岡谷市立

職 業 明治大学法学部卒業

昭和44年 岡谷市役所 入局

平成20年 岡谷市役所 介護福祉課長 就任

平成23年 岡谷市役所 介護福祉課長 就任

職 務 介護福祉課長(2013年度)

れていませんでした。これをどうクリアしていくかが、最初のハードルでした。

医師会提言を受け、市内や岡谷病院とも協議し、今井市長や塚田病院事業管理者（当時）の決裁を受け、1歳児（1歳未満児の保護者を含む。）から高校生を対象者として、市立岡谷病院が実施医療機関となり、医師会の先生方は岡谷病院のパート医師として参画いただき、健康推進課は事務方として対応することになりました。そして実施に向け、医師会、岡谷病院、健康推進課で何度も協議を重ね、最善の方法を検討しました。

接種会場をどこに

いざ集団接種をするとすると、どこが会場として適当であるか。これが大きな問題でした。保健センター、市役所9階の大会議室、岡谷病院講堂、カノラホール、テクノプラザ、イルフプラザ、諏訪湖ハイツ等が候補として挙がりましたが、対象者が多く、広い会場でないとうまく流れがつかれないことから、いずれも帯に短し褌に長しでどうしようかと悩みました。

しかし、良い場所がありました「ララ岡谷」です。駅前で、駐車場もあり、2階のフロアが丸々空いていて、広くて使える会場でした。ここは、ご存知のように商業施設が入った建物で商業組合があります。勝手に使うわけにはいけないので、市商業観光課と協議し、商業組合にお願いし、快く了解をいただいて使用が可能となりました。また、



接種会場レイアウトの図面

消防法の許可も必要であり、建物の平面図に保健師による会場レイアウトを示した図面を添付して消防署に申請し、現場検証を経て使用許可を受けました。

会場づくり

会場は「2階エレベータ前→受付→体温計測の待合や問診表記入場所→問診票確認→母子手帳確認→料金収納→予診→中受付→接種→済証発行→接種後の休憩所→エレベータ前へ」というルートを設定し、ビニールテープでルートを区画し、順番待ちのところは立待ちのディズニールンドの方式で実施しました。接種者の流れはうまくいき、大きな混乱はありませんでした。

接種の案内

案内通知は、乳幼児は健診時に、保育園・小中学校は、保育園・小中学校経由で案内をすることを教育委員会の了解のもと、それぞれの接種区分に合わせてお知らせを配布しました。また、お知らせチラシを、接種区分毎に、接種可能になった時に、区を通して市内約1万7千世帯に全戸配布しました。いずれも岡谷病院や健康推進課の職員が印刷し、枚数分けして届けましたので、作業はかなりの手間と時間がかかりました。

申し込みと受付

受付事務も大変でした。対象者は約1万人で、申込受付をどうするか。みんなで悩みました。

申込みは往復はがきに限定して受け付けることとし、電話、窓口では一切受付しませんでした。また、ワクチンがどの程度確保できるか、当初は不明であったため、希望者多数の場合は抽選とし、説明をしました。往復はがき代は自己負担でしたが、これについては特に苦情はありませんでした。結果的には、長野県が集団接種に配慮していただいたこと等により、ワクチンは充足しましたので、どの区分も抽選にはならず、ホッとしたことを覚えています。受付後は、受付者を

湖水端医療談義 新型インフルエンザのワクチン集団接種を振り返って

接種実施の日時に振り分け、これをリスト化し、往復はがきの半分に接種日時の案内を印刷して、該当者に郵送しました。

実は通知はがきの郵送にもトラブルがあり、郵便局がお詫びの対応をすることがありましたが、何とか切り抜けることができました。

いざ集団接種

接種スケジュールは保健師が立てました。集団接種は1日曜日実施とし、国からの区分ごとの接種開始時期や接種回数により、平成21年12月13日から開始し、最終は翌22年3月14日までの予定でした。途中で接種回数等の変更があり、2月21日が最終日となりました。3か月にわたり全8回の実施で、延べ接種者数は2,975人となりました。最終日以降は、見合わせの方は岡谷病院で対応しています。

ワクチンは、年代により量が異なっていて間違いやすく、供給されるバイアルも半端な量で使いづらいものでしたが、1件の間違いもありませんでした。看護師の皆さんに感謝です。また、集団接種会場での保護者からの相談には、山田先生、小野先生が対応していただいたこともあり、受付や会計も含め大きなトラブルもなく無事終了することができました。

小学校5、6年、中高生の女子には、予診が男性医師の時は看護師さんがついての対応となりました。やはりお年頃には気を使わないといけないうことであります。

よく覚えているのが、ある保護者の母親が「1週間前に接種したので、2回目を打ちたい。」と申し出て、接種していったことです。厚生労働省は2週間の間隔を推奨していましたので、接種するのはおかまわらないが、これで免疫がつくのだろうか、ひとごとながら心配したものです。

振り返ってみると

新型インフルエンザへの対応は、岡谷市は岡谷病院も含め、市民の生命に直結するものとして危機管理体制で臨んでまいりました。医師会の先生方も、同様に危機感をもって当たっていただきました。係わった全ての者の思いが、短期間で準備

と集団接種の実施、完了へと導いたのだと思います。

岡谷病院の事務担当者は、実施医療機関としての事務を、医師会、健康推進課と緊密に連絡をとり責任を持って対応し、また、保健師も一緒に考え、役割を果たしてくれました。これも集団接種が成功した理由のひとつだと考えています。また、こうした経験を通して、岡谷市医師会、岡谷病院、岡谷市の信頼関係が深まったと感じています。

新型インフルエンザは

新型インフルエンザは本年4月1日から季節性に移行し、名称も「インフルエンザ(H1N1)2009」となりました。厚生労働省新型インフルエンザ対策事務局は、同本部が発出した事務連絡のほとんどを廃止し、長野県の対策本部も解散し、岡谷市の対策本部も解散いたしました。ここに3年にわたっての対策に一区切りがついた感じがいたします。

しかし、今回は幸いなことに弱毒性のものでしたが、想定は鳥由来の強毒性のものでした。今後必ず来るであろう強毒性の新型インフルエンザへの対応として、実施した集団接種は、パンデミック時の良いシュミレーションになったと思います。この経験を忘れないようにしなければなりません。

むすびに

今、感染症対策としての予防接種の考え方が大きく動いているように感じています。昨年の日本脳炎予防接種の再開、子宮頸がんやHib及び小児用肺炎球菌のワクチン接種実施と、国の政策が急展開しています。そのたびに現場である市町村は対応を迫られ、医師会の皆様にご理解とご協力をいただいております。これからの国、厚生労働省の動きを注視していかなくてはならないと思っています。

乳幼児からの子どもへの予防接種は、未来に向かって、輝く子どもの育成のためとても大切であると思っています。今後とも岡谷市医師会の皆様のご支援、ご協力を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

岡谷市医師会